

こんなひと、してる？

ともだち

1 くまのコールテンくん

ドン・フリーマン 作 まつおかきょうこ 訳
偕成社 978-4-03-202190-5

コールテンくんはおもちゃのクマ。デパートのおもちゃ売り場で、だれか自分をうちつけられていけないかなあと考えていました。あるあさ、ひとりの女の子がコールテンくんを見て「あたし、ずっとまえからこんなクマがほしかったの」といいました。



ともだち



2 ふたりはともだち

アーノルド・ローベル 作 三木卓 訳 文化出版局
978-4-579-40247-2

ある日、がまくんはかえるくんに「ぼく、おてがみ、もらったことない」とかなしそうにいました。そこでかえるくんは大いそぎで家にかえると、がまくんにてがみをかきました。そしてしりあいのカタツムリに、がまくんのいえにてがみをとどけてくれるようにたのみました。

3 こぎつねコンと こだぬきポン

松野正子 文 二俣英五郎 画 童心社
978-4-494-01202-2

子ギツネのコンと、子ダヌキのポンが友だちになりました。ある日、コンがポンに、ポンがコンにばけてあそんでいると、おかあさんがやってきました。もとのすがたにもどるじかんはありません。ふたりは、あいてにばけたままで、おたがいの家に行くことになります。



4 黒ネコジェニーの おはなし 1



エスター・アベリル 作・絵 松岡享子、張替恵子 共訳
福音館書店

小さな黒ネコのジェニーはキャット・クラブに入りたいと思いました。クラブでは会員のネコたちがおどったり、歌ったり、たのしそう。でもジェニーは、何もできません。何もできなくては、クラブに入れません。そこで、ジェニーはスケートをやろうとけっしんします。



5 やかまし村の子どもたち



リンドグレーン 作 大塚勇三 訳 岩波書店
978-4-00-115064-3

わたしの名前はリーサ。もうすぐ8さいになります。わたしの住んでいるやかまし村には家が3げんあります。3げんの家にはこどもが6人います。みんなで木の上にひみつの小屋を作ったり、かぶぬきのお手伝いをしたり。ときどきけんかもするけれど、とてもなかよしです。

ちしきのほん

6 すみれとあり



矢間芳子 作 福音館書店
978-4-8340-1817-2

スミレのたねがはじけて、とびちりました。アリが見つけて、はこんでいます。たねについた白いかたまりがアリのごちそうです。とおくまで、はこばれたたねは、やがてあっちこちで、めを出しました。アリはごちそうをもらって、スミレをふやすてつだいをしているのです。



きょうだい

7 あさえと ちいさいもうちょう

筒井頼子 作 林明子 絵 福音館書店
978-4-8340-0874-6

おかあさんは、あさえにいもうとのあやちゃんのせわをたのんで、出かけました。ふたりで家のまえであそんでいるうちに、ふと気がつくと、あやちゃんがいません。キキー！ 大どおりからブレーキの音がしました。あやちゃんだったらどうしよう。あさえはぱっとかけだします。



8 にいさんといもうと

文 シャーロット・ゾロトウ 絵 メアリ・チャルマーズ
訳 矢川澄子 岩波書店

あるところに、にいさんといもうとがいました。にいさんはいもうとをからかってばかりいました。ベッドの中にビヨウを入れたとか、おまへのキャンデーもらったとか。そのたびに、いもうとはなきだしました。でも、ほんとうはにいさんは、そんなことぜんぜんしていなかったのです。



9 ビーザスと いたずらラモーナ

ベバリイ・クリアー 作 ルイス・ダーリング 絵
松岡享子 訳 学習研究社 978-4-05-202664-5

ビーザスの最大のなやみは、妹のラモーナです。ラモーナは、図書館の絵本にいたずら書きをしました。友だちとチェッカーで遊んでいるところに、三輪車でつっこんで、ゲームをめちゃくちゃにしました。箱に入ったリンゴを一口ずつかじりました。ラモーナにはお手上げです。



10 わんぱくきょうだい 大作戦



マヤ・ヴォイチェホフスカ 作 清水真砂子 訳
岩波書店

母さんが生きていたころは、何もかもうまくいっていたのに、今はみんな大声を出して、けんかばかり。そこで3人兄弟は、父さんと結婚してくれそうな人をさがすことにします。末っ子のモットはスーパーで女の人を見つけると、父さんをひっぱってきて「この人はどう？」と聞いてみました。

わんぱくきょうだい 大作戦

マヤ・ヴォイチェホフスカ作
清水真砂子訳



11 すえっこ^{オー}ちゃん



エディス・ウンネルスタッド 作
ルイス・スロボドキン 画
下村隆一、石井桃子 訳 フェリシモ
978-4-89432-277-6

オーちゃんは7人兄妹の末っ子、5歳の女の子です。ある日、はしかにかかってたいくつしたオーちゃんは、電話をかけてみました。すると、出たのは知らないおじさんでした。おじさんは、ぜったいはしかがうつらない遊び相手をつれていってあげると言いました。いったい、だれ？

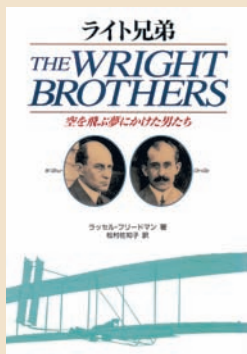
ちしきのほん

12 ライト兄弟 空を飛ぶ夢にかけた男たち



ラッセル・フリードマン 著 松村佐知子 訳 偕成社
978-4-03-814140-9

ウィルバーとオービルは4歳違いの兄弟でした。ふたりは、こどものときからともに遊び、大人になってからはともに印刷所を作り、自転車店を経営し、やがて空を飛ぶことに熱中します。鳥が翼をかたむけて飛ぶ様子を観察し、自分たちの飛行機に応用して、実験をくりかえし、大空をめざしました。



きょうだい



おとうさん

13 こだぬき6ぴき



なかがわりえこ 文 なかがわそうや 画
岩波書店

つきみ山のてっぺんにタヌキの一家がすんでいます。おとうさんがゆりいすでいねむりしていると、6ぴきの子タヌキが、あたまやひざにとびついて「おとうさん、おとうさん」とさげびます。おとうさんのかおを自分のほうへむけようとたたいたり、ひっかいたり、大さわぎ。



14 とうさんおはなしして



アーノルド・ローベル 作 三木卓 訳
文化出版局 978-4-579-40249-6

7ひきの子ネズミが、ねるまえに、とうさんにおはなしを1つねだりました。するととうさんは、ひとりに1つずつ、ぜんぶで7つもおはなしをしてくれました。ほかけぶねで出かけたネズミのはなし、おふるの水をあふれさせて、町中を水びたしにしたネズミのはなし…。



15 きつねのとうさん ごちそうとった



ピーター・スピアー 絵 松川真弓 訳
評論社 978-4-566-00262-3

月の明るいばん、キツネのとうさんが、えものをさがしに村にでかけました。そっと、とりごやにしのびこむと、カモやアヒルが大さわぎ。のうかのおじさんが、てっぽうをもっておいかけてきます。キツネは、えものをくわえて、にげる、にげる、子ギツネのまつほらあなへ。



16 火のくつと風のサンダル ♧ ♧

ウルズラ・ウェルフェル 作 関楠生 訳 童話館出版
978-4-924938-75-5

夏休みに、7さいのチムは、おとうさんと旅をすることになりました。村から村へ、くつなおしの仕事をするおとうさんと歩くのです。赤いくつをはいたチムは「火のくつ」、おとうさんは「風のサンダル」と新しく名前をつけました。リュックをしょって、さあ出発。



17 大きな森の小さな家 ♧ ♧ ♧

ローラ・インガルス・ワイルダー 作
ガス・ウィリアムズ 画 恩地三保子 訳 福音館書店
978-4-8340-0350-5

アメリカの開拓時代、大きな森にローラ一家が住んでいました。とうさんが鉄砲でうったシカを、かあさんがくんせいにします。畑をたがやし、パンやハムを作り、みんなでいつもいそがしく働きます。ローラたちの一番の楽しみは、夜、とうさんのひくヴァイオリンで歌うことでした。

ちしきのほん

18 タツノオトシゴ ♧ ♧ ひっそりくらすなぞの魚

クリス・バターワース 文
ジョン・ローレンス 絵 佐藤見果夢 訳
評論社 978-4-566-00844-1

タツノオトシゴは、リュウのように見えますが、魚のなかまです。オスのおなかには、カンガルーのようなふくろがあります。メスがこのふくろにたまごを何百個も生みつけると、オスはしっかり口をとじます。やがてふくろの中のたまごがかえり、オスは昼も夜も赤ちゃんを生み続けます。



まじよ

19 ロバートの ふしぎなともだち

マーガレット・マヒー 文
スティーブン・ケロッグ 絵 うちだりさこ 訳
ほるぷ出版

ある日、ロバートのあとをかバが1ぴきついできました。つぎの日は4ひき、つぎの日は9ひき、かバはどんどんふえて27ひきがおしあいへしあい。おとうさんが、まじよをよんで、おまじないをしてくれます。かバはみんな出て行きましたが、かわりにロバートについてきたのは…。



20 まほうつかいの ノナばあさん

トミー・デ・パオラ 文・絵 ゆあさふみえ 訳
ほるぷ出版 978-4-593-50064-2

むかしイタリアに、ストレガ・ノナというまほうつかいのおばあさんがいました。ストレガ・ノナは、うたをうたうと、ほかほかのスパゲッティが出てくるふしぎなかまをもっています。おてつだいのアンソニーは、じぶんもかまをつかってみたくてたまりません。



21 小さい魔女

オトフリート・フロイスラー 作 大塚勇三 訳
学習研究社 978-4-05-104647-7

小さい^{まじよ}魔女は、たったの127歳。大きな^{まじよ}魔女たちのなかまに入るには、しげんに受からなくてはなりません。小さい魔女は魔法を勉強して、良い魔女になろうと決心します。たきぎ集めのおばあさんたちのために、風を吹かしてえだを落としたり、いじわるな人をこらしめたり、大かつやく。



22 魔女の宅急便



角野栄子 作 林明子 画 福音館書店
978-4-8340-0119-8

魔女の女の子キキは、13歳になった満月の夜にひとり立ちをしました。お父さんとお母さんの家をはなれて、黒ネコのジジを連れ、ほうきに乗って、見知らぬ町へ飛んでいきました。新しい町でキキが始めたのは、宅急便。最初の荷物はかごに入ったぬいぐるみの黒ネコでした。



黒ねこの王子カーボネル

バーバラ・スレイ 作
山本まつよ 訳



23 黒ねこの王子 カーボネル



バーバラ・スレイ 作 山本まつよ 訳 岩波書店
978-4-00-114161-0

ロージーは、夏休みによその家のそうじをして、お金をかせいで、お母さんをおどろかさそうと思いつきます。そこで市場に行って、あやしげなおばあさんから古びたほうきと黒ネコを買いました。ところがそれは魔女のほうきで、黒ネコは口をきくことができたのです。

24 空とぶベッドと 魔法のほうき



メアリー・ノートン 作 猪熊葉子 訳 岩波書店

ケアレイ、チャールズ、ポール姉弟は、近所のプライスさんがこっそり魔女の勉強をしているのを見つけます。プライスさんは秘密を守る代わりに、ベッドの丸いにぎりに魔法をかけてくれました。3人がベッドに乗って、にぎりを回すと、行きたいと願った所へ飛んで行けるのです。

空とぶベッドと魔法のほうき

メアリー・ノートン 作
猪熊葉子 訳





おいしゃさん

25 歯いしゃのチュー先生



ウィリアム・スタイグ 文・絵 うつみまお 訳 評論社
978-4-566-00290-6

ネズミのチュー先生は、うでききのはいしゃです。モグラやシマリスのような小さなかんじゃは、いすにすわり、ロバやウシなど大きなかんじゃは、先生が口のなかにはいって、ちりよします。とてもにんきがありますが、ネコやキツネなど、きけんなどうぶつはおことわりです。



26 ひとまねこざる びょういんへいく



マーガレット・レイ 文 H.A.レイ 絵 光吉夏弥 訳
岩波書店 978-4-00-110926-9

サル の じょーじ は、と ても し り た が り や。あ
る 日、つ く え の 上 の は こ を の ぞ い て、中 に あ
っ た 小 さ な け ら を ひ と つ、た べ て み ま し た。そ
の う ち、お な が が い た く な っ て き て、と う と う
に ゆ う い ん す る こ と に な り ま し た。じょーじ は、
びょういん で お と な し く し て い ら れ る で し ょ う
か？

27 ちかちゃんのはじめてだらけ



薰くみこ 作 井上洋介 絵 日本標準
978-4-8208-0294-5

ちかちゃんは歯医者さんに行ったことがありません。友だちのゆうたは、歯でサイダーのピンをあけようとして、ギン歯が取れてしまいました。ゆうたはへいきなかおで、今から歯医者さんに行くというのです。ちかちゃんがついていくと、ゆうたは歯医者さんにかかるコツを教えてくださいました。

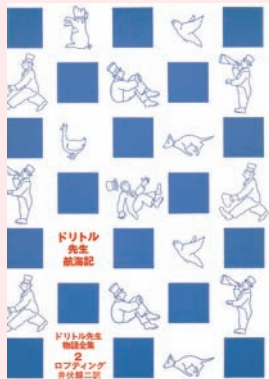


28 長い長いお医者さんの話



カレル・チャペック 作 中野好夫 訳 岩波書店
978-4-00-114002-6

お医者さんというものは、病人をみてくださ
いとたのまれたら、ことわることができないの
です。たとえその人が恐ろしいおいはぎであ
っても、まっ黒な悪魔であっても、ウメの種をの
どにつまらせた魔法使いや声が出なくなった妖
精であっても、ずいぶんたいへんな仕事ですね。



29 ドリトル先生航海記



ロフティング 作 井伏鱒二 訳 岩波書店
978-4-00-115002-5

ドリトル先生は、動物の言葉が話せるお医者さ
んです。先生は動物の話を書いて、病気を治して
くれるのです。その上、動物たちがつらい目にあ
っていると、きっと助けてくれます。だから動物た
ちは、先生と家族が航海のとちゅうで難破してい
るのを見て、すぐに助けてくれました。

ちしきのほん

30 どうぶつえんの おいしゃさん



降矢洋子 作 福音館書店
978-4-8340-0865-4

朝、どうぶつえんのおいしゃさんは、
どうぶつたちがげんきか、見てあるきま
す。それからにゅういんしているどうぶ
つたちのえさを作ります。えさには、く
すりをまぜます。ライオンのけが、シマウマのつめきり、キツネの
けつまくえん。どうぶつたちのちりょうにおおいそがしです。





ごきげんなおんなのこ

31 まあちゃんのかみがながいかみ

たかどのほうこ 作 福音館書店
978-4-8340-1330-6



まあちゃんのかみは、みじかいおかつぱ。友だちのはあちゃんとみいちゃんは、かみの長いのがじまんです。まあちゃんは、「あたしは、もつとながくのばすの」といいます。その長いことといたら、高いつりばしの上からおさげをたらして、川のさかながつれるくらいですって。



32 ロージーちゃんのひみつ

モーリス・センダック 作・絵 なかむらたえこ 訳
偕成社 978-4-03-431080-9



ロージーの家のげんかんに、ふだがかかっています。「ひみつをおしえてほしい人は、この戸を3どたたくこと」キャシーが、戸をたたいて「ひみつってなあに？」ときいたら、ロージーが「あたしは、もうロージーじゃないの。アリンダっていうすてきなかしゅよ」というのです。

ロージー
ちゃんの
ひみつ



33 長くつ下のピッピ

リンドグレン 作 大塚勇三 訳 岩波書店
978-4-00-115061-2



ごたごた^{そろう}にやってきたピッピは、世界一よい女の子。馬一頭をまるごと持ち上げることでもできます。ニンジン色のおさげと右と左の色がちがう長くつ下。サルサルのニルソン氏と馬と住み、「はやくねなさい」といわれることもなく、毎日たのしいことばかり。

長くつ下のピッピ



リンドグレン 作
大塚勇三 訳

34 ペニーの日記 読んじゃだめ



ロビン・クライン 作 アン・ジェイムズ 絵
安藤紀子 訳 偕成社 978-4-03-631130-9

10歳のペニーは、ピンクのドレスやリボンが大きい。それにお年よりも。好きなのは馬です。蹄鉄は47個、馬のカードは350枚も集めました。ペニーは、ボランティアで出かけた老人ホームで、81歳のベタニーさんと知り合い、馬のことをいろいろ教えてもらいます。



35 マチルダは ちいさな大天才



ロアルド・ダール 作 ケンティン・ブレイク 絵
宮下嶺夫 訳 評論社 978-4-566-01425-1

マチルダは、1歳半でなめらかにしゃべり、3歳になる前には、家にある本や雑誌で、ひとりで字を覚えました。4歳4ヶ月のときには、図書館にあるこどもの本を全部読んでしまいました。そこで図書館員に、大人の人が読む有名な本を教えてと頼みました。

ごきげんな
おんなのこ

ちしきのほん

36 遊んで遊んで リンドグレンの子ども時代



クリスティーナ・ビヨルク 文
エヴァ・エリクソン 絵 石井登志子 訳
若波書店 978-4-00-115582-2

『長くつ下のピッピ』の作者、リンドグレンはスウェーデンの農家に生まれました。木登り、お話ごっこ、「もの発見家遊び」、手紙ごっこ…、兄弟や友だちと遊んで遊んで遊ぶ毎日。ちょっぴりお手伝いもしたけれどね。楽しい絵と写真がリンドグレンの子ども時代を教えてください。





ちいさいひと

37 いっすんぼうし



いしいももこ 文 あきのふく 絵 福音館書店

むかし、あるところにおじいさんとおばあさんがすんでいました。ふたりには、こどもがありませんでした。とてもさびしいので、おてんとうさまに、おねがいすると、おやゆびぐらいの男の子がうまれました。いっすんぼうしとなまえをつけ、かわいがってそだてました。



いしい ももこ 文/あきの ふく 絵

38 いたずら小人プムックル



カウト 作 大塚勇三 訳 学習研究社

プムックルは、いたずらが大好きです。ふだんは人間の目には見えませんが、家具師のエーダー親方のうちで、うっかりにかわにくっついて、すがたをあらわしてしまいます。プムックルは、足をつねったり、板の上のおがくずをはきおとしたり、エーダー親方をこまらせます。



39 パディーの黄金のつぼ



ディック・キング=スミス 作 三村美智子 訳
岩波書店 978-4-00-115993-6

レプラコーンは、だれにも見えない小さな人です。アイルランドに住んでいるひとりっ子が、たんじょう日に長ぐつをはいていて、その長ぐつのかたっぽにあながひとつあいていたら、会うことができるんです。ブリジッドの8さいのたんじょう日にそのとおりのことがおこりました。



ディック・キング スミス作 三村美智子訳

40 床下の小人たち



メアリー・ノートン 作 林容吉 訳 岩波書店
978-4-00-110931-3

古い家の床下に、アリエッティたち3人家族が住んでいました。暮らしに必要なものは、すべてこっそり人間から借りています。マッチ箱でダンスを作り、切手をかべにかざり、すいとり紙をじゅうたんにして…。ある日、アリエッティはその家の男の子に姿を見られてしまいました！



41 木かげの家の小人たち



いぬいとみこ 作 吉井忠 画 福音館書店
978-4-8340-0103-7

^{ようせい}妖精のアッシュー家は、イギリス人のミス・マクラ克蘭のバスケットに入れられて、日本にやってきました。一家は、毎日、人間から空色のコップに一杯のミルクをもらって暮らしていました。やがてミス・マクラ克蘭は教え子の達夫にアッシュー家をまかせて、帰国します。

ちしきのほん

42 あかちゃんてね



星川ひろ子・星川治雄 著 小学館
978-4-09-726041-7

わたしのうちに赤ちゃんがうまれたよ。まっかなかおでなっている。だから赤ちゃんっていうのかな？ はじめは、おっぱいをのんで、ねむってばかり。でもあやすとよるこぶようになって、はもはえてきた。1ねんで、びっくりするほど大きくなったよ。





なまけもの

43 おさらをあらわなかったおじさん



フィリス・クラジラフスキー 文 バーバラ・クーニー 絵
光吉夏弥 訳 岩波書店 978-4-00-115135-0

ある日おじさんは、とてもおなかがへったので、ばんごはんをたくさん食べました。おなかがいっぱいでもごけず、おさらをあらいませんでした。つぎのばんも、そのつぎのばんもおなじことに。とうとう、きれいなおさらは1まいもなくなり、おじさんは、はいざらでたべました。



りんごのきこふたがなったら



アニタ・ローベル 文 アーノルド・ローベル 絵 佐藤涼子 訳

44 りんごのきこふたがなったら



アニタ・ローベル 絵 アーノルド・ローベル 文
佐藤涼子 訳 評論社 978-4-566-00239-5

おひゃくしょうさんとおかみさんは、いちばで子ブタをたくさん買いました。よく朝おかみさんは、トウモロコシのたねまきをてつだっておくれとたのみました。ところがなまけもののおひゃくしょうさんは、にわに子ブタがさいたらてつだうといって、ぐうぐうねてばかり。

45 ものぐさトミー



ペーン・デュボア 文・絵 松岡享子 訳
岩波書店 978-4-00-115129-9

トミー・ナマケンボの家はでんきじかけです。トミーが、ゆび1ぼん動かさなくても、きかいが何もかもやってくれます。でんきハブラシがはをみがき、でんきブラシがかみをとかし、上を向いているだけで、口の中におかゆやバナナ、たまごやトーストがづぎづぎと入ってきます。



46 おそうじをおぼえたがらない リスのゲルランゲ



J・ロッシュ＝マゾン 作 堀内誠一 画 山口智子 訳
福音館書店 978-4-8340-0399-4

11ぴききょうだいの子リスたちは、まいば
んじゅんばんにおそうじをします。でも末っ
子のゲルランゲだけはおそうじがきらいで
ちっともしません。とうとうおばあさんにお
こられて、家出します。えだからえだへとん
でいくうち、足をふみはずしてオオカミの上
に落ちてしまいました。



なまけもの

47 なまくらトック



東京子ども図書館 編 東京子ども図書館
978-4-88569-051-8

トックは生まれながらのめんどくさがりや
でした。赤ちゃんの時もぜんぜん泣かなかっ
たので、みんなはトックのことをなんていい子だ
ろうといいました。でも本当のことをいえば、
トックは、泣くなんてめんどうなこと、はじめっ
からぜんぜんする気がなかったのです。

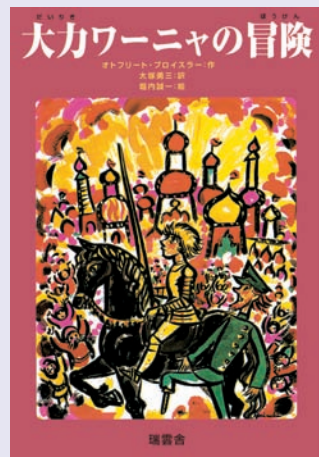


48 大カワーニヤの冒険



オトフリート・プロイスラー 作 堀内誠一 絵
大塚勇三 訳 瑞雲舎 978-4-916016-40-9

ワーニヤは3人兄弟の末っ子。兄さんたち
は働き者でしたが、ワーニヤはとほうもない
なまけものでした。あるときワーニヤは、森
で老人に会い、しょうらい皇帝になると予言
されました。でもそのためには、7年間だれ
とも口をかかずにパンやきかまどの上にな
ければならないのです。





どろぼう

49 おんどりとぬすつと

アーノルド・ローベル 作
アニータ・ローベル 絵 うちだりさこ 訳
偕成社

ある暗いよる、オンドリがねむっているなやに、ぬすつとがしのびこみました。オンドリをころしてしまえば、ずっと夜中のままで、だれにも見られずにぬすみができるとかんがえたのです。ところがかしこいオンドリは、ぬすつとをみごとだまして、たいようをおこします。



おんどりとぬすつと

アーノルド・ローベル 作 アニータ・ローベル 絵 うちだりさこ 訳

どろぼうがっこう



かこ さとし おほあしのぼん

50 どろぼうがっこう

かこさとし 絵・文 偕成社
978-4-03-206040-9

どろぼうがっこうのせいとたちは、うんとべんきょうして、早くわるいどろぼうにならなければなりません。きょうは、かねもちむらにえんそくです。よるになるとぬきあし、さしあし、しのびあし。みんなで、いちばん大きなおやしきに、しのびこみました。

51 大どろぼう ホツェンプロツツ

プロイスラー 作 中村浩三 訳 偕成社
978-4-03-608250-6

ホツェンプロツツは、7本の短刀をこしにさす、おそろしい大どろぼう。ある日、おばあさんをピストルでおどし、だいじなコーヒーひきをうばい取ります。まごのカスパールと友だちのゼッペルは、コーヒーひきをとりもどそうと、大どろぼうのかくれがをさがします。



大どろぼう
ホツェンプロツツ

プロイスラー 作 中村浩三 訳

大どろぼう
ホツェンプロツツに
ご用心!

52 山賊のむすめローニャ



リンドグレーン 作 大塚勇三 訳 岩波書店
978-4-00-115079-7

雷のとどろく日、山の上の城に住む山賊の頭マッティスに女の子が生まれました。その子はローニャと名づけられ、山賊たちにかわいがられ、元気に育ちました。ある日、ローニャは、城の向こう側で、一人の男の子にあいます。それは敵の山賊の息子、ビルクでした。



53 モモ



時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語

ミヒヤエル・エンデ 作 大島かおり 訳
岩波書店 978-4-00-110687-9

古い廃墟に小さな女の子のモモが1人で住んでいました。たくさんのこどもや大人が、モモのところに来て、話を聞いてもらい、幸せな気持ちになりました。そのころ、町のあちこちに灰色の男たちが現れて、人々の時間をぬすんでいました。これに最初に気づいたのはモモでした。

ちしきのほん

54 小町算と布ぬすつと算



わらべうたと物語でつづるたのしい算数

山崎直美 著 さ・え・ら書房
978-4-378-03840-7



呉服屋で反物をぬすみだしたどろぼうたちが、橋の下でひそひそ話をしています。「反物はみな同じだけ分けることにしよう。8反ずつ分ければ7反たらず、7反ずつ分ければ8反あまる」どろぼうは何人、ぬすまれた反物は何反でしょう？これは、日本に古くから伝わる算数です。

めいたんてい

55 たんたのたんてい

中川李枝子 作 山脇百合子 絵 学習研究社
978-4-05-104615-6

たんたが、あさ、しんぶんをとろうとすると、ゆうびんうけに、にんじん色のつかいかけのはみがきが入っていました。「しんぶんが、はみがきになるなんて、どうして？ よし、にんじんばたけに行つて、たんていしよう」とたんたはでかけます。



56 くものすおやぶんとりものちょう

秋山あゆ子 作 福音館書店
978-4-8340-2149-3

虫の町では、くものすおやぶんが、ぴょんきちをつれて、町の見まわり。おかしやの「ありがたや」のみせさきをとおりかかると、「あっ、おやぶんさん」とみせのアリたちがかけよってきました。ぬすつとから「こんや、おかしをちょうだいする」とてがみが来たというのです。

57 エーメールと探偵たち

エーリヒ・ケストナー 作 池田香代子 訳 岩波書店 978-4-00-114018-7

ベルリン行きの汽車に乗ったエーメールは、お母さんから預かったお金が心配でたまりません。向かいの席の山高帽やまたかぼうの男がどうもあやしい。エーメールはうっかり眠ってしまい、目を覚ますとお金がありません。駅の人ごみの中に見えた山高帽やまたかぼうを追つて、エーメールは汽車を降ります。

エーメールと探偵たち

エーリヒ・ケストナー 作
池田香代子 訳

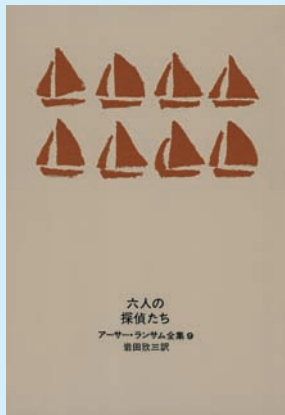


58 名探偵カッレくん



リンドグリーン 作 尾崎義 訳 岩波書店
978-4-00-115068-1

カッレは、シャーロック・ホームズよりえらい探偵になるつもりでした。夏休みも毎日、町のパトロールを欠かしません。そこへ現れたのは、友だちの親戚、エイナルおじさん。おじさんは合鍵を持ち歩き、真夜中に窓から抜け出します。カッレはおじさんを見張ることにします。



59 六人の探偵たち



アーサー・ランサム 作 岩田欣三 訳
岩波書店 978-4-00-115039-1

ジョーとビルとピートは、川の棧橋につないだボートにねとまりしていました。ある日、隣りに停泊していた船が流されて3人がうたがわれます。そこでうたがいを晴らすために自分たちで真犯人を探することにします。みんなで現場に行くと、真新しい自転車のタイヤのあとが見つかりました。

ちしきのほん



60 石ころがうまれた ビロード石誕生のひみつ



渡辺一夫 著 ポプラ社 978-4-591-08384-0

わたしは静岡県の海岸で、きれいな石ころをひろいました。深い緑色をして、にぎるとビロードのような手ざわりです。すかにも名前はありません。そこでわたしは、このビロード石がどこからやってきたのかを探偵することにしました。「ビロード石捜査本部」の始まりです。

めいたんてい



おうさま

61 クッキーのおうさま



竹下文子 作 いちかわなつこ 絵 あかね書房
978-4-251-04019-0

りさちゃんは、おかあさんとクッキーをよきました。さいごにのこったざいりょうで、王さまのかたちのクッキーをつくり、オーブンに入れました。やきあがると、クッキーの王さまは「あち、あち、あちち！」とさけびながら、とびだしてきました。



62 ぼくは王さま



寺村輝夫 作 和田誠 絵 理論社
978-4-652-00506-4

王さまは、しゃぼん玉がたいそう気に入りました。ふわふわとうかんで、にじ色に光って、みんなの顔やけしきがさかさまにうつります。このすてきなしゃぼんだまを糸でつないで 首かざりを作り、国のたからにすることにしました。

63 はだかの王さま



アンデルセン 作 バージニア・リー・バートン 絵
乾侑美子 訳 岩波書店
978-4-00-110876-7

むかし、新しい服を着るのが大好きな王さまがいました。ある日、ふたりの男がやってきて、美しいまほうの布をおろることができるといいました。その布で作った服は、おろかな者や役目にふさわしくない者には見えないということです。そこで王さまは布をおってもらうことにしました。





64 ギルガメシュ王 ものがたり



ルドミラ・ゼーマン 文・絵 松野正子 訳
岩波書店 978-4-00-110617-6

むかし、メソポタミアに、太陽神からお
くられたギルガメシュという王がいました。
王は、人間の心がどういふものか知らず、
無理やり高い城壁を作らせたりして人々を
苦しめました。人々が助けてくださいと祈ったので、太陽神は、今度はエ
ンキドゥという人間をおくりました。

65 アルフレッド王の 戦い



C・W・ホッジズ 作 神宮輝夫 訳 岩波書店

9世紀のイングランドの話です。少年のアル
フレッドは、手に入れた馬具を同じ名前の
人に渡すようにとのお告げを受け、アルフレ
ッド王を訪ねました。初めて会ったアルフレ
ッド王は、そまつな衣服を身にまとったただの
兵士のようにでした。



お
う
さ
ま

ちしきのほん



66 オオカミ王ロボ シートン動物記



アーネスト・T・シートン 文・絵 今泉吉晴 訳・解説
童心社 978-4-494-01267-1

ニューメキシコの高原、クルンパを支配しているのは、ハイイロオオカミの
ロボでした。特別大きくかっこいいロボ
は、群れをひきいて次々とウシをおそい、
人々に恐れられていました。何人もの獵
師がワナや毒をしかけても、ロボは人間
をあざわらうように、見破ってしまうの
です。



おひめさま

67 ねむりひめ グリム童話



フェリクス・ホフマン 絵 せたていじ 訳 福音館書店
978-4-8340-0014-6

あるくには、おひめさまがうまれました。王さまは 大よろこびで、おいわいのえんかいをひらきました。すると、よばれなかつたうらないおんながやってきて、「ひめは、15になったら、つむにさされて、たおれてしぬぞ!」とのろいのことばをさけんで、さっていきました。



おひめさま



68 小さな山神スズナ姫



富安陽子 作 飯野和好 絵 偕成社
978-4-03-528310-2

スズナ^{ひめ}姫は、偉大^{いだい}な山神^{やまがみ}、喜仙^{きせん}大^{おおい}巖^{いわ}尊^{のみこと}のひとりむすめ。あと3日で300さいになるスズナ姫は、スズナ山の山神としてひとりだちしたいと思っていました。お父さんは、一日で山の木の葉ぞめができれば、みとめようと言いました。スズナ^{ひめ}姫は雲にのって、はりきって出かけます。

69 なまけものの王さまと かしこい王女のお話



ミラ・ローベ 作 ズージ・ヴァイゲル 絵
佐々木田鶴子 訳 徳間書店 978-4-19-861372-3

ナニモセン五世は、代々の王さまと同じようにふとっていて、ナマケモノでした。落ちたかんむりをひろうのも、333人いる家来にやらせます。一方、ピンパーネツラ王女は、王家の生まれにしては変わっていて、ぜんぜんふとっていないし、一日中お城のなかを走りまわっていました。



70 トンボソのおひめさま

バーボー、ホーンヤンスキー 文 石井桃子 訳
岩波書店 978-4-00-110302-1

昔、王さまが、3人の王子にそれぞれ^{たからもの}宝物を残して死にました。3番めの王子、ジャックが手に入れたのは、どこへでも行けるまほうのベルト。ジャックは、ベルトをまきつけて、トンボソに行きます。そこには、月のように美しいおひめさまが住んでいるというのです。



かるいお姫さま

マクドナルド作
監 明子訳



71 かるいお姫さま

マクドナルド 作 協明子 訳 岩波書店
978-4-00-114133-7

昔、ある国にかわいいお姫さまが生まれました。ところが、魔女にのろいをかけられて、心も軽く、体も軽く、まったく重さがなくなってしまったのです。お姫さまは、ゆすりあげただけで、天井までふわふわと飛んでいってしまい、下におろすのに大さわぎです。

ちしきのほん

72 お姫さまの アリの巣たんけん

秋山あゆ子 作 福音館書店
978-4-8340-2233-9

虫が好きなおひめさまが、友だち5人とアリを観察していました。するとふしぎな仙人^{せんじん}があらわれて、みんなの体を小さくして、アリの巣へ連れて行ってくれました。巣はめいろのようにつながっています。働きアリがたまごや幼虫^{ようちゆう}の世話をし、大きな女王アリがたまごを生んでいます。



うれしいな、たのしいな

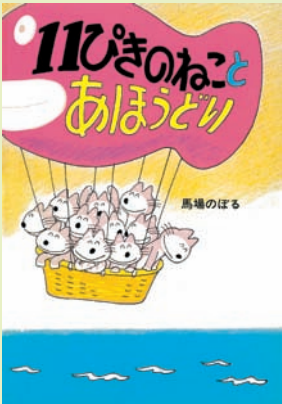
ごちそう

73 ジャイアント・ジャム・サンド

ジョン・ヴァーノン・ロード 文・絵
安西徹雄 訳 アリス館
978-4-7520-4012-5



あついなつ、チクチク村にとんできた4ひゃくまんびきのハチのたいぐん。こまった村人、そうだんし、あまいジャムサンドでハチをつかまえようときめました。大きな大きなパンをやき、ダンプカーでジャムをはこび、ジャイアント・ジャム・サンドのできあがり。



74 11ぴきのねことあほうどり

馬場のぼる 作 こぐま社 978-4-7721-0033-5

11ぴきのネコがコロッケやをはじめました。お店はだいはんじょう。でも、そのうち売れのこるようになりました。ネコたちのごはんは、毎日コロッケばかり。「とりのまるやきがたべたいねえ」といっていると、1わのおいしそうなおアホウドリが、コロッケを買いにやってきました。

75 へんなどうぶつ

ワンダ・ガーク 文・絵 わたなべしげお 訳
岩波書店



ボボじいさんは、いつもとりやどうぶつたちに、くるみのケーキやたねいりプディングをごちそうしていました。ある日、見たことのないどうぶつがやってきて、自分は「どうぶつ」だといいました。やさしいボボじいさんは、どうぶつにおいしいごちそう、じゃむ・じるを作ってあげます。

ごちそう

76 せかい1 おいしいスープ



マーシャ・ブラウン 再話・絵 わたなべしげお 訳
ペンギン社

おなかをすかせたへいたいが3人、ある村にやってきました。村人たちは、大切なたべものをかくしてしまいます。そこでへいたいたちは、「石でスープを作ります」といいました。石でスープを作るなんて！ 村人たちは目を丸くしました。



村は大きなパイづくり



77 村は 大きなパイづくり



ヘレン・クレスウェル 作 猪熊葉子 訳 岩波書店

ある時、王様がパイづくり大競技会を開くことになりました。最大で最上のパイを作ったものは、戸口に王家の紋章をいただくことができるのです。パイ作りで名高いダンビー村では、2,000人分のパイを作ることにします。材料は、粉90キロ、肉90キロ、タマネギ22.5キロ…。

ちしきのほん

78 手で食べる？



森枝卓士 文・写真 福音館書店
978-4-8340-2072-4

わたしたちは、はしやスプーン、フォークとナイフなどいろいろな道具を使って、ごちそうを食べます。でもインドやマンマーの人たちは、手でじょうずに食べます。ごはんとかレーをよくまぜて、指先でつまんで、口に持っていきます。手でもごちそうを味わっているのです。





てがみ

79 ゆうびんやさんはだれ？



ルース・エインワース 作 河本祥子 訳・絵
福音館書店

にわにすむどうぶつやとりたちは、石の下にてがみをおいて、ポストのかわりにしていました。でもくばる人がいないので、ゆうびんやさんをきめることにしました。だれがうまくてがみをくばれるか、ためすこととなります。子ネコ、リス、子イヌ、コマドリ、だれがなるでしょう。



80 どんぐりと山ねこ



宮沢賢治 作 高島純 絵 岩崎書店
978-4-265-07101-2

ある土曜日の夕がた、おかしなはがきが、一郎のうちにきました。手紙には「あした、めんどなさいばんしますから、おいでんなさい」と書いてありました。そこで、一郎が山に出かけていくと、草地のまんなかで、ドングリたちのさいばんが始まりました。

81 おたよりください



K. スンド 作 A. セラーノ＝ブネル 絵
木村由利子 訳 大日本図書

リンダは8さい。しんぶんに「おたよりください。オルガ（8さい）」というこくが出ていたので、オルガさんに手紙を書きました。すぐ返事が返ってきましたが、オルガさんは80さい、新聞がまちがえたのです。でも8さいと80さいのふたりは、文通を始めます。



82 エドウィナからの手紙

スーザン・ボナーズ 作 ナカムラユキ 画
もきかずこ 訳 金の星社
978-4-323-06319-5

ある日、エドウィナは古い手紙のたばを見つけました。自分と同じ名前の大・大おばさんが、市の偉い人たちに意見を述べた手紙です。エドウィナは大・大おばさんのまねをして、公園のブランコを直してくれるよう、市長さんに手紙を書きました。それがうまくいくと、次々手紙を書いて…。



ヘンショーさんへの手紙

B. クリアリー 作 谷口由美子 訳 むかいながまさ 画



83 ヘンショーさんへの手紙

B. クリアリー 作 むかいながまさ 画
谷口由美子 訳 あかね書房

リー・ボッツは、2年生のときに作家のヘンショーさんに手紙を書きました。それから毎年書き続けました。6年生になって、学校で作家についてレポートを書くことになり、またまたヘンショーさんに質問だらけの手紙を出しました。するとお返しに質問状が届いてしまいます。

ちしきのほん

84 てがみはすてきな おくりもの

スギヤマカナヨ 著 講談社
978-4-06-212181-1

てがみて、きまった大きさのはがきやふうとうでなければ出せないとおもっていませんか？ 大きなはっぱやかいがらにペンで字をかけば、はがきになります。まるいかみざらもポケットをつけたはがきもちゃんとおくれます。この本には、すてきなてがみのヒントがいっぱい。

